

1年間のお礼と4月からの学校運営に関するお知らせ

保護者の皆様方には、1年間、本校の教育活動に対しまして、多大なるご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございました。12日に卒業式を終え、新入生を迎えるまでの間は1・2年生だけの学校生活でしたが、子どもたちは1つ上の学年への進級に向けて、授業・生徒会活動・部活動等のあらゆる面において、目標をしっかりともち、1年間を締めくくるために頑張っていました。先程の修了式では、それぞれの学年の代表者に「1年間、本当によく頑張りました」という気持ちを込めて、「おめでとう」の言葉を添えて、修了証書を手渡したところです。本日の子どもの凍とした姿からも、1年間の成長を感じることができ、喜びを感じています。また、学年が1つ上がる子どもたちへの期待を込めて、式辞で次のような話をしました。

人は当たり前のことほど、それに対する感謝の心を忘れがちです。例えば、親の存在。親はいるのが当たり前。子どもを助けて守るのが当たり前だと思っています。ですが、親を亡くした時、喪失感とともに、親の存在がどれほど有り難かったかを身をもって知ることです。知らず知らずのうちに、親に頼っている部分は少なくないものです。それを心の負担を感じさせずに当たり前のようになっているのが、親の偉大なところ、存在感の大きさだといえます。また、他にも災害が起こって不自由な生活になった時、当たり前の普段の日常がどれほど有り難い日常だったのか、大げがをして不自由さを感じた時、健康がどれほど有り難いことだったかなどです。曹洞宗永平寺のお坊さんが、「あるべきものが、あるべきところに、あるべきように、ある」これが当たり前の姿だとおっしゃっています。当たり前の反対語は「ありがとう」であると言われるぐらい、実は当たり前以上に有り難いものはないのです。素直に「ありがとう」の言葉が出るように、周りの当たり前のことを今一度見直してみてもどうでしょうか。朝起きたら朝食が用意してある。学校に行けば、普通に机が置いてあり、話を聴いてくれる友だちがいる。今、ここにある当たり前のことに、どれほど自分が支えられているか、あるいは癒やされたり、励まされたり、勇気づけられたりしているか。このことに気づくと心は大きく変わります。家族に対して苛立ったり、勉強や部活動をいい加減にしたり、友人関係を煩わしく思ったりといったことが無くなっていきます。そして、今、この瞬間が充実していくのです。4月から新しい学年がスタートするにあたり、皆さんに当たり前のことをもっともっと大事にしようという気持ちが高まり、そして全てのことに感謝する気持ちが芽吹いてくれることを期待しています。

さて、学校では1年間様々な視点から教育活動を評価し、成果と課題を確認しながら、即座に改善できるものはスピード感を持ち、時間のかかるものには地道な努力を続けながら、より良い仁尾中学校になることを願い取り組んで参りました。つきましては、4月(次年度)から以下の点につきまして、学校運営における変更を実施しますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

- 高校説明会は、今年度同様1回のみ実施する。
- PTA総会の日(4/27:土)は、午前中に授業参観(自由参観)、午後から総会をランチルームにて従来の形で行い、その後、各教室で学級PTA、部活動PTAを行う。
- 授業参観は、PTA総会の日(4/27)の午前中と入学説明会の午前中に、自由参観の形で年2回実施する。
- 生徒は7:20~8:00までに登校し、8:05~朝の会をスタートする。(生徒玄関の解錠時間は7:20)
- 月曜日の1校時を学活とし、毎月、全校朝礼と生徒会朝礼を1回ずつ行う。
- 中間テストの1日目は2教科、2日目は3教科とする。
- 期末テストの前日は4校時までとする。
- 常任委員会・全校評議会は6校時に開催する。(関係のない生徒は部活動、または下校)
- 欠席生徒への対応は、原則として勤務時間内とする。
- 教室に入りづらさ等を感じている生徒のために、校内サポートルームを設置する。【裏面参照】
- 運動場の除草作業等の環境整備について、学校側が可能なことはしながら、地域連携担当が状態を見て、年間数回、休日のボランティアを要請する。(親子美化活動は廃止)

S R (サポートルーム) の設置について

1 目的

不登校支援においては、不登校状態を問題行動と捉えず、再登校のみをゴールとせず、生徒の社会的自立をめざし、生徒の最善の利益を最優先に支援することが重要である。

空き教室等を利用して、教室とは異なる雰囲気 of 校内サポートルームを開設することを通して、緊急避難や休養を求める不登校傾向の生徒にとっての居場所や個別最適な学習機会を確保し、多様で適切な学びの選択肢を増やすことにつなげる。

2 利用条件 (イメージ)

- ・ 教室よりもリラックスでき、安心・安全度が高い場所。
- ・ 何らかの心理的な原因で教室に入れない不登校傾向の生徒にとっての一時避難場所。セーフティネット。
- ・ 教室復帰をめざす不登校生徒の学校に馴染むリハーサルの場所。
- ・ 個別最適な学習環境を実現するための場所。
- ・ 生徒の選択が尊重される (不登校傾向の生徒は自分の好きな時間に来て、利用することができる。どのような過ごし方をするかも原則として自分で決める) 場所

3 具体的な校内の対応

① 場所 現在の第1会議室を整備し、S Rとして利用

② 対応

- ・ 毎時間担当者を決め、その時間には教職員が常駐する。
- ・ 生徒の過ごし方は、まずは本人に決めさせる。(読書、自学自習など) すぐ下校することも構わない。
- ・ 慣れてきて生徒が望むならば、可能な教科は授業を進めても良い。所属教室をオンラインで結び、授業に参加できるようになれば理想的である。
- ・ 利用を希望する生徒は、お試し期間を経て、正式に利用届を校長宛に提出することで利用が可能となる。お試し期間中は出席扱いにしないが、正式に利用届が出た後はお試し期間開始に遡って出席扱いとする。

→令和6年4月からの運用となりますが、希望していない者は利用できませんので、在校生で利用 (お試しまたは正式)を希望する者は、始業式までに中学校 (校長・教頭) までご相談ください。始業式以降は、各学級担任に申し出るようになります。